

第1回二条大橋デザイン検討会議 摘録

- 日 時：平成27年12月14日（月） 19時00分～20時40分
- 場 所：職員会館 かもがわ 2階 大会議室
- 出席者：委員・・・8名全員，報道機関・・・1名，傍聴者・・・なし

○議事内容

1 開会

- ・出席者（委員及び事務局）紹介

2 事務局より資料説明

- ・議題1 デザイン検討会議の概要 資料-5, 6 の説明
- ・議題2 デザインコンセプト 資料-5, 6 の説明

3 意見交換

- 委員 ・高欄は，今の御影石製のままだがよい。現在のデザインを継承する形がよい。
- 委員 ・周りの橋を見ると，御池大橋は，アルミ製で高欄の高さが高く（基準通り）設置されており，高瀬川御池橋は，嵩上げたようである。
- 委員 ・歩道は広げないのか。
- 事務局 ・設計の段階で歩道幅も検討したが，構造的に厳しい状況である。今回の整備では，高欄を少し外側に出して，歩車道境界に設置する車両用防護柵の設置空間を確保する。
- 委員 ・歩道は幅員が変わらないのか。
- 事務局 ・現在2mある歩道幅（有効幅員）と同様の幅員を確保する計画である。
- 委員 ・橋の途中で見物客が立ち止まって景色を見るケースもあるため，バルコニーの設置を少しでも考えられないか。
- 委員 ・二条大橋は，三条大橋や四条大橋，五条大橋，七条大橋に比べてデザインに特徴がない。質実剛健なイメージ。もう少しデザイン的に華美にできないか。
- 委員 ・バルコニーは，簡素な構造にする等工夫すれば，設置可能ではないか。
- 委員 ・立派な御影石製の高欄を前面に出してもらいたい。写真を撮ってもらえるような橋にしてはどうか。
- 委員 ・御影石製の親柱の上に何も載っていない。何か装飾を載せてはどうか。
- 事務局 ・バルコニーは，構造的に厳しい状況である。橋を造る当初から重量を計算に入れておけば良いのだが，後から設置するとなると力学的な余裕がなく厳しい状況である。
- 委員 ・バルコニーは，構造的には難しいと思われる。その代替案として，橋詰（橋の

たもと)を広げることが考えられる。また、親柱に装飾を設けるのは装飾の意味を歴史的に丁寧に考えないと不安があると思う。

・耐震的な面では、二条大橋がゲルバー構造なので構造的に弱い、今回の補修工事で何か対策をするのか。

事務局 ・主桁を連続化させゲルバー部を無くす形にする。橋脚2基を固定橋脚にして、地震力を受け持たせる構造とする。主桁の温度による伸縮は、橋台のところで吸収するようになっている。

委員 ・例えば、パリのセーヌ川に架かる橋では、橋の装飾を周囲の宮殿等の建築の装飾と素材やデザインを合わせる形にしている。京都の橋でも、御園橋は、上賀茂神社との関係で神社建築に合わせた欄干や擬宝珠が整備されている。また、北大路橋は、金閣寺への参道の位置付けとして、それに合わせた燈籠照明がついている。対照的に、賀茂大橋は、欄干などは縦棧で、糺の森の風景を引き立たせるためにあえてデザインを抑えシンプルにしている。現在の二条大橋も、周りの風景を主役に引き立たせるために、あえて装飾やデザインを抑えている。

・二条大橋の特徴は、近代的な側面と周りの伝統的な街並みと調和した自然素材を使用しているところにある。

・高欄の柱を少し張り出すことで縦のラインを強調し、これと張り出しブラケットとの間隔を合わせ、丁寧に整合が取られている。このような点でも二条大橋は、シンプルで抑制が効いたデザインであるが、三条大橋などとは違う個性が発揮されたデザインではないかと考える。

・バルコニーは、リズム感のある橋桁の連続性を阻害するので心配である。

・橋詰(橋のたもと)の広場は、面積の確保がなかなか難しいので、舗装のデザインを整えることで、広く見せることも可能かもしれない。

事務局 ・バルコニーと橋詰広場の設置については、設置可能かどうか次回の検討会議でお示ししたい。

4 事務局より資料説明

・議題3 デザイン検討対象施設 御影石製高欄について 資料-5, 6 の説明

5 意見交換

委員 ・現在あるものを利用して10cmのコンクリート嵩上げ案(嵩上げ部はコンクリート台座、擬石調塗装)でよいと思う。

事務局 ・高瀬川御池橋は、橋長が短いので石で嵩上げを行った。北大路橋や二条大橋は、橋長が長いので、コスト的にもコンクリートで嵩上げを行いたいと考えている。

・コンクリート嵩上げ案を基本として検討を進めていきたい。

委員 ・地覆外側側面も嵩上げ部と連続する形になるが、擬石調塗装にするのか。

事務局 ・擬石調塗装にする予定である。

6 事務局より資料説明

・議題4 デザイン検討対象施設 歩道舗装について 資料-5, 6 の説明

7 意見交換

(1) 材質について

委員 ・インターロッキングは好ましくない。お年寄りがつまずく。御影石製が良い。

事務局 ・御影石製を基本として今後検討を進めていきたい。

(2) 大きさについて

委員 ・リッツカールトンホテルの前の舗装の形状は、舗装要素を木屋町通りに合わせているが、植栽部分を確保したためその配置割りから必然的に現在の大きさになったと思われる。

委員 ・木屋町通りとの連続性、統一感を出してもらいたい。リッツカールトンホテル前の歩道のように、大きさを変えることにより高齢者や子供がつまずきにくくなるという効果があると聞いたことがある。

・統一感を考えると、A案(150mm×600mm)とB案(300mm×600mm)の間くらい(200mm×600mm)を基本とするのがよいと思われる。

・二条大橋西詰南側の歩道がインターロッキングブロックとなっているが、この際、木屋町通りから二条大橋まで、同じ御影石製で統一出来ないか。

事務局 ・今回の工事は橋の上だけになる。今後、将来的にこの部分を改良するときに、統一的な整備が出来ればと考える。

・200mm×600mmを基本として今後検討を進めていきたい。

(3) 色について

委員 ・舗装の色は明るい方が安全だが、照明もあり安全性も確保されるので、木屋町通りとの統一感を考え、グレー系でよい。

委員 ・木屋町通りの御影石は深い色でテクスチャも記憶に残る。リッツカールトンホテル前より木屋町通りの方がテクスチャに深みがある。

委員 ・おそらく、鴨川の橋でこれほど深く濃い色だと個性が強くなるので、装飾性の点ではグレードも上がるように思う。

事務局 ・グレー系を基本として今後検討を進めていきたい。

8 事務局より資料説明

・議題5 デザイン検討対象施設 車両用防護柵について 資料-5, 6 の説明

9 意見交換

(1) 形状について

委員 ・北大路橋の検討時にも感じたことだが、車両用防護柵は元々製品の数が少ない。

委員 ・四条大橋の歩車道境界に設置された、ゆりかもめの絵柄が入った柵は特注か。

事務局 ・特注品である。非常に高価なものとなっている。

委員 ・支柱付け根のボルトは出ないようにしてもらいたい。支柱の間隔はいくらになるのか。

事務局 ・既製品になるので、支柱間隔は2mになる。

委員 ・A案の丸支柱・楕円ビームがやわらかくてよい。

事務局 ・A案を基本として今後検討を進めていきたい。

(2) 色について

委員 ・防護柵、桁、照明柱も同じような色になるか。

事務局 ・車両用防護柵の色は、照明柱や桁塗装の色とも関連するので、次回の会議の中で総合的に考えていきたい。

委員 ・グレーベージュとはどんな色か。(事務局より色見本を提示)

委員 ・車両用防護柵、桁、照明柱等とのからみもあるので、現段階はA案で仮決めでよいと思われる。

委員 ・北大路橋は、グレーベージュの車両用防護柵なので、参考にしていきたい。

事務局 ・グレーベージュを基本として今後検討を進めていきたい。ただし、次回に行う照明柱や主桁の塗装色も含めて総合的に判断していきたい。

10 閉会

次回の開催時期及び予定の議題を確認し、閉会した。

(以 上)